■市民自治を考える市民ワークショップ

年度	テーマ
令和元年度	市民参加の将来像を考える
平成 30 年度	地域コミュニティの将来像を考える
平成 29 年度	これからの町内会をみんなで考える
平成 28 年度	まちづくりセンターをもっと活用してもらうためにはどうすればよいか
平成 27 年度	市民参加を進めるために、何ができるか
平成 26 年度	効果的な情報提供・情報共有について
平成 25 年度	市民参加の意識とその醸成について
平成 24 年度	地域の交流の場、コミュニティカフェなどにおける地域交流の活性化について
平成 23 年度	札幌市自治基本条例とまちづくり
平成 22 年度	まちづくりセンターは地域のまちづくりの拠点となりえるか
平成 21 年度	情報共有・市民参加について
平成 20 年度	情報共有・市民参加について
平成 19 年度	情報共有・市民参加について

※ワークショップの名称について
平成 19 年度～25 年度までは「市民による集中評価会議」
平成 26 年度～27 年度までは「市民によるまちづくり会議」
平成 28 年度以降は「市民自治を考える市民ワークショップ」

令和元年度
市民自治を考える市民ワークショップ

報　告　書

令和２年３月

札幌市市民文化局市民自治推進室

目　次

第１章　開催概要 1
１　開催目的 1
２　事業概要 1
（1）ワークショップテーマ 1
（2）参加者選出 1
（3）開催日時等 2

第２章　ワークショップの実施方法 3
１　当日のスケジュール 3
２　ワークショップにあたって 4
３　ワークショップの概要 5
（1）グループの編成 5
（2）ワークショップの流れ 5

第３章　市民自治を考える市民ワークショップの実施 7
１　情報提供 7
（1）情報提供①「市民参加とは何か」 7
（2）情報提供②「これからの市民参加を考える」 10
２　ワークショップ 13
（1）ワークショップ①　『なぜ、市民参加が必要なのか』 13
（2）ワークショップ②　『これからの市民参加を考える』 18

第４章　参加者アンケート 22
１　アンケート実施概要 22
２　アンケートの質問項目と結果 22
３　参加者アンケート結果のまとめ 32
（1）参加者について 32
（2）参加者アンケート結果 32

第５章　ワークショップの考察……33
１　市民参加の必要性について……33
（1）市政レベルの市民参加の必要性……33
（2）まちづくり・地域コミュニティでの市民参加の必要性……33
２　将来の市民参加のあり方……34
（1）市政レベルの市民参加の方法や仕組み……34
（2）まちづくり・地域コミュニティレベルの市民参加の方法や仕組み……35

第６章　資料編……36
１　情報提供資料……36
２　アンケート票……43
３　グループごとの意見……45
（1）テーマ１『なぜ、市民参加が必要なのか』における各グループの意見……45
（2）テーマ２『これからの市民参加を考える』における各グループの意見……50

第１章　開催概要

１　開催目的

札幌市が、安全に安心して暮らし、また快適に過ごすことができるまちをつくっていくために、市民参加は重要なテーマである。市民参加を進めていくためには、より多くの市民に市民参加の必要性を周知し、市民参加への理解を高めていってもらうことや、市民参加がしやすい環境を整備していくことが必要と考えられる。

そこで今回、市民参加の必要性について確認し、実際に市民参加するにはどのようなアイディアがあるかを話し合ってもらい、今後の市民参加促進のための制度、施策を検討するときの参考にするためワークショップを開催した。

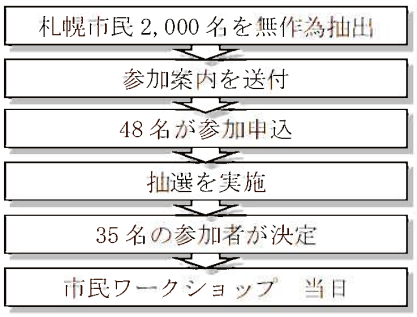
２　事業概要

（1）ワークショップテーマ

「市民参加の将来像を考える」

（2）参加者選出

日ごろ市政への参加機会が少ない方にも広く参加いただくことを目的として、住民基本台帳から無作為に抽出した 2,000 名の市民に参加案内を行い、申込者 48 名から抽選で 35 名を選出した。その後、体調不良等による欠席があり、当日参加者は 26 名であった。



○例年、参加者決定後に複数の方が辞退されていることから、定員 30 名に対して、今年は参加者を 35 名とした。

■参加者数内訳

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	計
男性	0	1	3	5	2	5	0	16
女性	0	1	1	0	2	3	3	10

（3）開催日時等

仕事等で平日は忙しい方が多いことを想定し、できるだけ各世代の方が参加しやすいように、土曜日の開催とした。

なお、ワークショップに主体性と責任感を持って参加してもらうため、参加者には謝礼を支払った。

日　時	令和2年2月22日（土）13：00～16：00
場　所	札幌市教育文化会館　4階　研究室403
参加者数	26人

第２章　ワークショップの実施方法

１　当日のスケジュール

ワークショップは、次の流れで進行した。

13：00　　開会（10分）

・開会のあいさつ

・ワークショップの主旨と一日の流れの説明

13：10　　情報提供①（10分）

『市民参加の将来像を考える』

・札幌市の市民参加の現状

・札幌市の市民参加の必要性

13：20　　ワークショップの説明（10分）

13：30　　ワークショップ①（40分）

『なぜ、市民参加が必要なのか』

・市民参加の経験(5分)

・市政レベルの市民参加の必要性(15分)

・まちづくり・地域コミュニティでの市民参加の必要性(20分)

14：10　　－休憩（10分）－

14：20　　情報提供②（10分）

14：30　　ワークショップ②（65分）

『これからの市民参加を考える』

①これからどのような市民参加が考えられるか(40分)

・自分が考えるまちづくりの課題と参加

・高齢化する地域社会・格差社会・孤立する社会・共生社会・ダイバーシティ・環境などから考えてみる。

②これからの市民参加のアイディア(25分)

・これからの市民参加を進めるための具体的アイディア

15：35　　発表（15分）

・各ファシリテーターからワークショップ①・②の発表

15：50　　まとめ（7分）

・総合ファシリテーターから全体の内容について振り返りとまとめ

15：57　　閉会（3分）

・閉会のあいさつ、参加者アンケートの記入

2　ワークショップにあたって

参加者が積極的に参加できるよう、「当日の案内」を事前に郵送し、参加に当たっての基本的なルールと情報提供などについて周知を図った。

■当日の案内

令和元年度　市民自治を考える市民ワークショップ

参加についてのご案内

ご参加にあたってのご案内事項、注意事項などを記載しています。事前に必ずお読みください。
ご不明な点などがありましたら、お気軽にお問い合わせください。（お問い合わせ先は最後に掲載しています。）

【ワークショップの概要】

地域課題が複雑・多様化する昨今において、より暮らしやすいまちづくりを進めるためには、幅広い市民の皆さまにまちづくりに参画していただくことが大切です。札幌市が、まちづくりを進めるための基本的なルールとして定めた「自治基本条例」では、まちづくり活動に市民の方が参加する「市民参加」を重要なものとして位置づけ、市民が主役のまちづくりを目指しています。

ご参加の皆様には、札幌市が抱えるまちづくりの課題を共有しながら、今後、世代を超えてより多くの市民の皆さまに、気軽にまちづくり活動に参加していただくためにはどうすれば良いかを、ワークショップ形式（少人数のグループで自由に意見を出し合っていただく方式）で話し合っていただきます。

皆さまからいただいたご意見は、今後の市の取組や施策の検討にあたっての参考とさせていただきます。

日　時

令和２年２月２２日（土）13：00～16：00（12：30 受付開始）

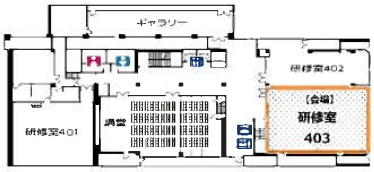
・受付には 12：55 までにお越しください。「参加者確認票 兼 口座振替申出書」をご提出ください。
・ワークショップ会場（研修室 403）の開場は 12：40 頃を予定しています。

会　場

札幌市教育文化会館４階 研修室 403（札幌市中央区北１条西 13 丁目）

・アクセス：地下鉄東西線「西 11 丁目」駅 １番出口　徒歩５分
　　JR バス、中央バス「北１条西 12 丁目」停留所　徒歩１分
・参加者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用いただくか、近隣の駐車場をご利用ください。
・交通費、駐車料金は参加者負担となりますのでご了承をお願いいたします。

＜会場付近の案内図＞



当日ご持参・ご提出いただくもの（事前の記載・捺印必要）

「参加者確認票 兼 口座振替申出書」・・・この郵便に同封しています。

・参加報酬の振込先口座について、「口座振替申出書」欄の必要事項のご記載とご捺印をお願いいたします。
・ご記載にあたっては、「口座振替申出書」欄の注意事項（※1～5）をよくご覧ください。

参加報酬について

全時間帯参加された方に、ワークショップ終了後に、参加報酬を口座振込でお支払いいたします。

・参加報酬は 3,000 円で、源泉徴収はございません。ワークショップ終了後、１か月程度での入金となります。
・事前・当日のお支払いや、口座振込以外の方法でのお支払いはいたしかねます。
・「参加者確認票 兼 口座振替申出書」を当日お忘れになった場合や、記載に誤りや漏れなどの不備がある場合は、振込が大幅に遅れることがあります。記載内容を今一度よくご確認のうえ、当日忘れずにご持参ください。

参加できなくなった場合

万一、参加できなくなった場合は、必ずご連絡をお願いいたします。（連絡先は最後に掲載）

・今回のワークショップは、抽選により落選されている方がいらっしゃることをご考慮のうえ、特段のご事情がない限り、ご出席くださいますようお願いいたします。
・やむを得ず参加できなくなった場合は、できるだけ早めにご連絡くださいますようお願いいたします。

当日、交通事情などにより遅れる場合

当日遅れる場合も、可能な限りご連絡をお願いいたします。（連絡先は最後に掲載）

・天候によっては移動に時間がかかることも考えられます。余裕をもってお出かけください。
・会場へのご到着が遅れる場合は、可能な限りご連絡をお願いいたします。ご連絡がなく、開始時刻から相当時間を経過した場合は、ご欠席と判断することがございます。

その他

・館内は全館禁煙ですので、館内での喫煙はご遠慮ください。なお、喫煙場所は、建物の外（１階東口側）にございます。
・ワークショップ中は、携帯電話の電源をお切りいただくか、マナーモードに設定してください。
・本市のホームページに掲載するため、写真を撮影いたします。また、ワークショップは公開となりますので、報道機関や見学者が入る可能性があります。本市や報道機関が撮影する写真や映像などに映り込む可能性がありますので、ご了承ください。

ご連絡先・お問い合わせ先

平　日 のご連絡・お問い合わせ先

０１１－２１１－２２５３（札幌市役所 市民自治推進課）

ご連絡可能な時間帯　8：45～12：15 または 13：00～17：15

※ 時間外には応答できない可能性があります。また、市役所閉庁日（土曜・日曜・祝日）は応答できませんので、あらかじめご了承をお願いいたします。

ワークショップ当日（２月２２日） のご連絡・お問い合わせ先

０１１－５２２－５０７０（当日の緊急連絡専用電話）

ご連絡可能な時間帯　令和２年２月２２日（土）12：00～13：30

※ 上記時間帯以外は応答できませんので、あらかじめご了承をお願いいたします。

３　ワークショップの概要

ワークショップは「市民参加の将来像を考える」をメインテーマに設定して、2 部構成で行った。

（1）グループの編成

意見交換は 5 グループ（1 グループ 5～6 名程度）を作り、ワークショップ①とワークショップ②を行った。ワークショップ①の議論を受けて、ワークショップ②ではより深い内容を話し合うことができるよう、グループの再編成は行わなかった。

また、意見交換を円滑に進めるため、各テーブルにファシリテーターを 1 名ずつ計 5 名配置し、参加者の意見を引き出すこととまとめ役を担った。

（2）ワークショップの流れ

1）進め方の説明

総合ファシリテーターから、ワークショップの進め方について簡単に説明した。

2）ワークショップ①『なぜ、市民参加が必要なのか』【40 分】

情報提供を受けて、市民参加の必要性について考えてもらった。

市民参加が具体的に何を指すかについて参加者のイメージを膨らませるため、市政レベルの市民参加と、まちづくり・地域コミュニティでの市民参加にそれぞれ区別して考えた。

また、市民参加の経験や、参加を考えるうえで障壁になっている課題などについても触れながら、多角的に検討した。

①市民参加の経験【5 分】

これまで市民参加の経験があるか、参加を考えたことがあるかについて各自意見を出してもらった。

②市政レベルの市民参加の必要性【15 分】

市民参加の必要性について、各自意見を出してもらった。また、市民参加を考えるうえで障壁になっている課題などについても、各自意見を出してもらった。

③まちづくり・地域コミュニティでの市民参加の必要性【20 分】

まちづくり・地域コミュニティレベルの参加の必要性について、各自意見を出してもらった。また、市民参加を考えるうえで障壁になっている課題などについても、各自意見を出してもらった。

3）ワークショップ①のまとめ

テーブルファシリテーターがワークショップ①でどのような議論がされたか、議論のテーマや内容ごとに模造紙にまとめた。

4）ワークショップ②『これからの市民参加を考える』【65 分】

ワークショップ①で “なぜ、市民参加が必要なのか” について出してもらった意見を踏まえて、どのように市民参加をしていけばよいかについて、具体的な市民参加のアイディアや方法について考えてもらった。

意見交換の内容は次のとおりである。

①どのような市民参加が考えられるか【40 分】

ワークショップ①で出された市民参加の必要性や課題を基に、今後どのような市民参加が考えられるかについて、身近な社会問題などとも併せて検討し、具体的なアイディアを出してもらった。

②これからの市民参加のアイディア【25 分】

個人としてこれから市民参加をするために、どのような方法でどのような参加方法があるのか、各自アイディアを出してもらった。現実的に取り組みやすいものはもちろん、取組に時間がかかるものも含めて、幅広くアイディアを出し合った。

5）グループごとの発表

テーブルファシリテーターがグループ内の意見をまとめ、1 グループ約 3 分程度で発表を行った。

6）まとめ

総合ファシリテーターが、全グループの発表内容から意見、傾向等をまとめ、確認した。

第３章　市民自治を考える市民ワークショップの実施

１　情報提供

（１）情報提供①「市民参加とは何か」

株式会社 KITABA の酒本氏より、市民参加とは何かについて、市政への参加とまちづくり活動への参加という 2 つに分けて、具体例を提示しながら説明した。また、新たな市民参加についても、その内容や特徴について情報を提示した。

■市政への参加

市民参加の方法の中で、市政への参加に当たるものとして以下の項目を説明した。

①アンケート

　市政に関してアンケートに答えてもらいます。

②パブリックコメント

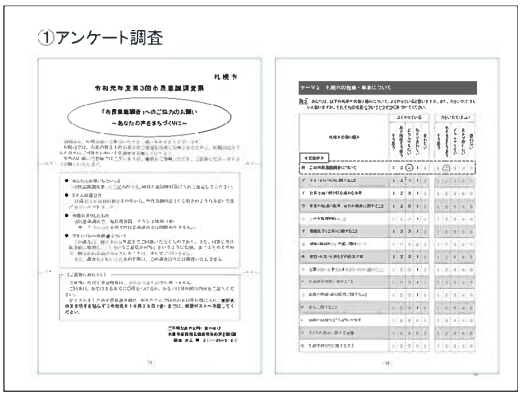
　計画や条例の最終案を作る前に、事前に公表し、市民のみなさんに意見を聴くことをいいます。

③全市的なテーマのワークショップ

　ワークショップで行政や施策などに理解を深めてもらいながら、意見などを出してもらいます。

④審議会・委員会への参加（公募委員）

　審議会は、市からの意見を求められた事項を調査・審査し、それに対する意見を述べる機関です。



■まちづくり活動への参加

市民参加の方法の中で、まちづくり活動への参加に当たるものとして以下の項目を説明した。

①町内会活動

・ごみステーションの管理・清掃活動
・町内会の除排雪
・災害時の助け合い
・高齢者の見守り

②身近なまちづくりへの参加

・地域レベルのワークショップ
（町内会について考えるワークショップなど）

③NPO などの活動

・子ども食堂
・ゲストハウスにおける学童保育
・富士見市の子育てサロン「ミッキークラブ」

④PTA 活動

・交通安全運動
・読み聞かせ活動
・PTA バザー

⑤ボランティア活動

・清掃ボランティア greenbird
・森林ボランティア
・観光ボランティアガイド

（2）情報提供②「これからの市民参加を考える」

株式会社 KITABA の酒本氏より、地域コミュニティの現状について具体例を提示しながら説明した。そして、抱えている課題の解決に向けた取組を考えるにあたり、全国の地域での取組例を紹介した。

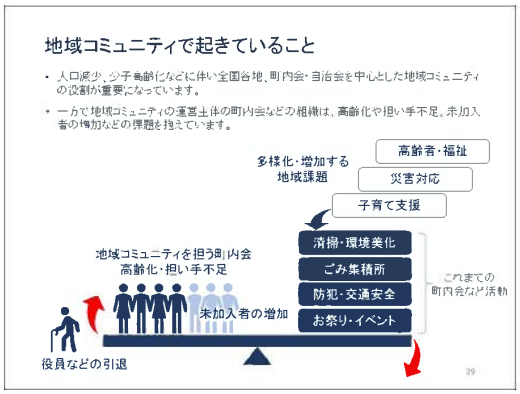
■まち・地域コミュニティで起きていること

〇地域を取り巻く現状・課題

・高齢化に伴う課題の顕著化
・地域での子育て支援
・孤独な日本社会の見えない地域課題
・空き家・空き施設の増加
・環境への取組
・共生社会への取組

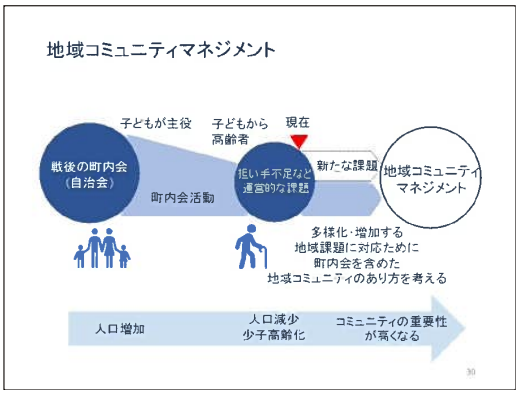
〇地域コミュニティの現状・課題

・人口減少、少子高齢化などに伴い全国各地、町内会・自治会を中心とした地域コミュニティの役割が重要になっています。
・一方で地域コミュニティの運営主体の町内会などの組織は、高齢化や担い手不足、未加入者の増加などの問題を抱えています。



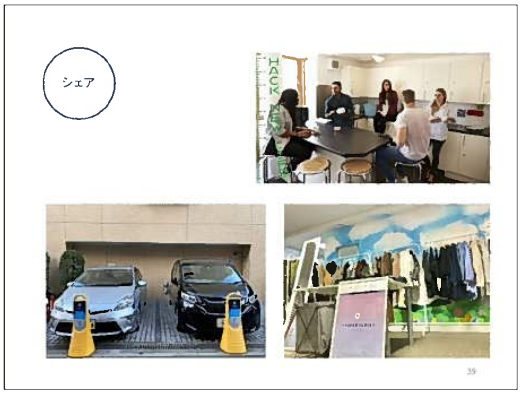
■地域コミュニティマネジメント

・多様化・増加する地域課題に対応するために、町内会を含めた地域コミュニティのあり方を考える。



【シェア】

・使わなくなったものや場所を貸し借りするシェアリングエコノミーは、今では車や服、キッチンスペースなど幅が広がっている。



【にぎわい】

・まちなかにあるオープンテラスの活用や、地域の夏祭りなどイベントに参加する。

【コミュニティの場】

・団地の中に、若い世代も寄りたくなる交流スペースを設けて、団地の再生をスタートさせる。

【空き家の活用】

・ゲストハウスで学童保育を行う。

・町内会と連携してまち歩きツアーなどを検討している。

・空き家を資源として活用するため、5 年間の期限付きで、空き家所有者に物件を提供してもらい、利用者を募集してストックを循環させている。

・空き地を市民で共有し、庭としての機能だけではなく、教育や研究のための重要なネットワークにもなっている。

【空き家の活用×コミュニティ】

○NPO による高齢者支援の実施（神奈川県横浜市）

・NPO 法人ふらっとステーション・ドリームでは、空き家や空き店舗を活用し、主に高齢者に向けて食事を共にする空間を創出している。

○地域住民によるコミュニティカフェ「こっぽら土澤」を実施（岩手県花巻市）

・地域の女性グループによる高齢者支援の一環として、コミュニティカフェを運営している。月ごとにメニューを貼り出し、カフェの利用を促している。

○ふくい会館（北海道札幌市）

・閉鎖となった幼稚園の払い下げを受けて、会館をリノベーションすることによって、多様な活動の場として広く利用されており、収益を生んでいる。

2　ワークショップ

（1）ワークショップ①　『なぜ、市民参加が必要なのか』

主な議論のテーマ
○市民参加の理解について
○市政レベルの市民参加について
○まちづくり・地域コミュニティでの市民参加について

1）ワークショップ①の進め方

あらかじめ振り分けた 5～6 人ずつのグループに分かれて意見交換を行った。
株式会社 KITABA の酒本氏による『市民参加とは何か』の情報提供を受け、市民参加はなぜ必要なのかについて、それぞれ考えてもらった。

■ワークショップの様子

２）主な意見

なぜ、市民参加が必要かについて考えるにあたり、まずは「市民参加」についてのイメージや経験を考えてもらった。参加者が考えたイメージとしては、「町内会活動」や「PTA 活動」が多くあげられた。また、市民参加の経験としては、「町内会活動」がほとんどを占めた。

次に、「市民参加」を市政レベルのものと、まちづくり・地域コミュニティレベルのものに分けて、それぞれの必要性や課題について意見を出し合った。市政レベルでは、必要性は感じているものの、情報や機会の不足に課題があげられ、まちづくり・地域コミュニティレベルでは身近な関わり方である反面、参加意欲の醸成が難しいという意見が出た。

①市民参加の必要性について

●市民参加の経験

町内会への参加

・町内会の班長や役員、当番の経験がある。

・町内会活動（会議、ごみ、清掃）に参加している。

・町内会は地域が暮らしやすいように、地域の為に活動し、そこに行政からのお願いが来ている。

その他

・市長とのタウンミーティングの経験がある。

・消防訓練に出たことがある。

●市民参加のイメージ

PTA 活動と似ている

・PTA の活動のようなイメージを持っている。

気乗りがしない

・ボランティア活動だと感じる。

・「市民活動やろう」となると敷居が高い。

地域活動の一環

・地域の見守り活動をイメージする。

・町内会の活動のイメージがある。

楽しそう

・夏祭りのイメージがある

・子どものつながりで地域でのつながりができる（こども会）。

・周りの人で厚真に行った時の写真を SNS にアップするなどしていた。

②市政レベルの市民参加について

●必要性

暮らしを支えるために必要

・暮らしを支える役割として必要である。

・ゴミの管理、除雪、排雪について直接意見を言うことは、暮らしを支えることに必要である。

・PTA 活動に参加している時に感じる。
・ボランティアなどやっているため、その時に感じる。

安心感を得るために必要

・何かあった時に助けられるために必要である。
・安心感のあるまちになるために必要である。
・災害時のことも考えると、地域コミュニティがしっかりしていると良い。

ニーズを把握し、暮らしをより良くするために必要

・ごみや環境美化、除排雪、災害時の助けあい、身近な交流など、暮らしやすい居住環境や地域コミュニティを維持していくためには、地域住民のニーズや改善策などを話し合う機会が必要である。
・選挙は義務だから可能な限り行く必要がある。
・地域単位で市民レベルのニーズや意見を可視化することが必要。
・ここに住みたいというまちにしていく為の住民の意見を聞けると良い。
・市民に関心、興味を持つことが必要である。

地域の問題を解決するために必要

・地域の課題を解決、住みたいまちにしていくために必要である。
・地域の課題や、テーマを決めて市民参加型の意見交換会などが必要。
・単身高齢者の集まりが必要。

その他

・市民としてのメリット利点が得られるのであれば良い。
・今町内会でやっていることは、本来行政がやることではないか。それを市民にお願いしている。

●課題

知る機会・参加の機会がない

・市政への参加のきっかけがない。
・知る機会がない。

関心がない

・どういう分野の活動が足りていないかわからない。
・市政が身近じゃない。
・情報発信ツール、広報もネットもわざわざ見ない。
・市全体で考えている市民は少ない。

情報がない

・避難所の運営方法など対応の仕方は行政から情報がない。
・マスコミの報道がないと情報が入ってこない。
・情報がありすぎるのではないか。
・手を貸してほしい人と協力したい人がマッチングしていない。

意見が公平に反映されていないと感じる

・言いっぱなしになっていることもあると感じる。

・意見が反映されるのかという疑問がある。
・声が大きい人が目立つ、意見が通ってしまう。
・施設を造るなどの際に、一部の人の意見だけだとあまり良くない。
・選挙の重要性を若い人たちへ伝えたらよい。

改善案の提案

・区単位での情報発信や参加のきっかけがあると良い。
・町内会同士の横のつながり、情報交換があると良い。
・市民参加をするためのきっかけづくりが必要。
・テレビの CM などがあると良い。

③まちづくり、地域コミュニティレベルの「市民参加」について

●必要性

意見を直接伝えることができる

・透明性を高めることが必要(目的や事業者など)。
・まちづくりの方針などを直接聞くことができることが必要。
・直接的にいろいろと話ができると満足度がある。

当事者意識を持つことができる

・自分から少しでも進んで集まりに参加することも大事。
・町内会の組織が以前はしっかりしていたが、現在は意見の吸い上げが難しくなっている。
・暮らしているなら自分の地域のことを考えるべき。

共通項でのネットワークづくりができる

・好きなこと、関心あることから市民参加につながっていくと良い。
・きっかけの為の登録制のネットワークづくり。
・子どものつながりで親同士のネットワークがあると良い。
・SNS で日頃からボランティアなどのネットワークを作っておく。
・ガーデニング好き、興味のあるものでつながっていくことはできないか。
・若い人のイベントが多いといい。
・老人クラブの方の活動があるといい。

多世代交流の場

・昔は年に 2、3 回集まって地区ごとに話し合っていた。
・団地などでの住民同士の結束が強さ。
・子どもが大きくなると、一時期地域から離れる気がする。
・高齢者も頭、体を使うことが必要。
・子どもたちの遊び場が必要。
・多世代の交流の場が必要。
・退職した後には草むしりとして参加することが考えられる。
・層を広げることで偏見の目がなくなるのではないか。

第３の居場所（場）づくり

・児童会館とか町内会館のような施設があると良い。

・みんなで集まれる場所が欲しい。多様な考えが共有できるといい。

・一人で行きやすい居酒屋みたいな自分の居場所があると良い。

参加しやすい活動の具体例

・病院など、他施設と連携したイベント企画などがあると良い。

・入院者への本の貸出しなどがあると良い。

・子どものボランティアなどがあると良い。

・報酬が出ることやインセンティブがあると良い。

その他

・PTA 活動との連携が考えられる。

・健康のために行うという視点も今後はあるかもしれない。

●課題

意見が反映されている実感や情報がない

・市政には意見を言ってもなかなか反映されてないような気がする。

・必要性は感じるけど、反映されるのか。情報が滞る印象を持つ。

・直接的に意見交換できる場がもっと必要（TV など）。

多様なライフスタイルが受け入れられていない

・原点は共働き家庭が増えてきたことだが、偏見の目が最近は増えている。

・子ども食堂に行っているという理由で貧困の目で見られる例もある。

参加しづらい

・市からの情報は敷居が高く感じる（言葉として）。

・手を上げやすい環境づくりが大事。

・ボランティアだけでなく、報酬をもらえると参加しやすいかもしれない。

（2）ワークショップ②　『これからの市民参加を考える』

主な議論のテーマ
○これからどのような市民参加が考えられるか
○これからの市民参加のアイディア

1）ワークショップ②の進め方

ワークショップ①と同様のグループで意見交換を行った。
ワークショップ①で出された意見は班ごとに集約し、模造紙にまとめたものを確認しながら、これからの市民参加についてグループごとに考えてもらった。
アイディアを考える際には、ワークショップ①の内容と情報提供の内容にあった事例紹介を参考に、今後の市民参加の具体例について意見を出してもらった。

■ワークショップの様子

２）主な意見

今後、どのような市民参加が考えられるかについて、市政レベルの市民参加の取組とまちづくり・地域コミュニティレベルの市民参加の取組それぞれの視点から、具体的な取組のアイディアが出された。

主な意見は以下のとおりである。

①市政レベルの市民参加のあり方・仕組み

●情報発信

マスメディアを駆使する

・テレビで市政の情報を受け取れるようにする。

SNS を活用する

・スマホで情報を受け取っているので、市の情報は LINE がいい。

・SNS で情報提供があるといい。登録するとインセンティブがあると良い。

WEB アンケートやダイレクトメールを活用する

・WEB アンケートをメールで送り、回収する。

・市からのダイレクトメールが有効ではないか。

様々な媒体を通して「市民意見の反映結果」を発信する

・ワークショップなどでの市民意見がどう扱われるか、結果や過程が見えると良い。

・意見が通るような体質づくりをしてくれるといい。

人が集中する空間や場所で発信する

・スーパー、地下鉄、学校、お店、カフェなどの掲示板を活用する。

・飲食店のトイレ、地下鉄の広告、バス、図書館、コンビニで情報発信する。

その他

・海外の事例を調べて取り入れる。

・まちづくりセンターで情報を発信するなら 24 時間対応できるようにする。

・口コミを信頼する。

・市役所に来た人に誘ってみる。

・何に困っていて、市民の参加が必要なのか伝える。

・区ごとの力を入れていきたい方針や取組を示し、区民の声を集めるようにする。

・区のキャラクターに発信してもらう。

●参加する機会・仕組み・場

・海外の視察を議員ではなく一般市民から募集してツアーを行う。

・市外の人を集めて、意見を聞く。

・アイディアに関して、企業のノウハウを教えてもらう。

●参加の利点

・企業に協力してもらう（チラシを置く、協賛など）。

②まちづくり・地域コミュニティレベルの市民参加のあり方・仕組み

●情報発信

マスメディアを駆使する

・コミュニティレベルで取得しやすい J-COM など有線の番組でも良い。

WEB サービスを活用する

・インターネットが普及しているのでそれを利用する。

その他

・自分の周り（生活圏）に情報がない。活動を知らない。

●参加する機会・仕組み・場

顔を合わせてのコミュニケーションや参加の機会づくり

・直接会話や意見を言える機会は必要である。

・地域にどんな方が住んでいるかわかると、参加しやすい。参加も声かけやすい。

・地域レベルの意見交換の場をもっとたくさんつくっていく。

・いろいろな主体の人が集まる機会をつくる。

・福祉、交通情報や町内会以外の人も参加することが良い。

インターネット通信を活用したリモートによる参加の機会づくり

・ワークショップもみんなで集まらなくてもリモートでできるようにする。

・リモートで決められた時間に、市長とのコミュニケーションの場を作れると良い。

・ご高齢の方もデジタルツールが簡単に活用できるようにする仕組みをつくる。

若い世代が参加しやすいテーマ・場所・時間帯の設定

・若い方、働いている人が参加できる夜カフェを開催。

・参加しやすいような時間帯を変える。

・学生にボランティア参加してもらう（学習・除雪などのテーマで）。

・若い世代が気軽に主催や企画を考えてもらう機会を用意する。

子ども達に対するふるさと教育を兼ねた体験活動の機会づくり

・大人の市民参加が進まないため、子ども達もイメージしづらい可能性がある。

・学校単位でボランティアなど参加してもらう。

・小中高で職業体験やってみる。

・子どもがまちづくりのゲームをしているため、授業などで取り上げても良い。

・企業（ゲームやエンターテイメント業界）と組んで、子ども、親の関心を引くイベントやまちづくりに関した企画を開発したり、PR できると良い。

・土日は家族で参加できると良い。

海外出身者の活躍機会づくり

・外国の方にもどんどん活躍してもらう機会を設けて、参加を促す。

多様な主体によるコミュニティマネジメント（エリアマネジメント）

・町内会だけでなく、地域レベルの色々な主体の意見を吸い上げる機会をつくる。

・医療機関同士では情報を共有している。ただし、見守りの情報などを外に開示することはない。

・町内会役員が高齢化していることや、担い手が確保できない状況であるため、町内会が以前よりも機能しなくなっている。
・地域レベルには町内会だけでなく、学校、医療機関、商店街、NPO など多様な主体がいるため、互いに連携して地域課題を解決していくことが必要である。

コミュニティマネジメントを運営していくための財源の確保

・町内会や地域内で行われるイベントに参加、協賛する。
・広告のスペース・場所を貸す。
・民間、食品の余ったものを母子家庭などに届ける支援を行う。

既存の場の活用

・子ども食堂などを集まる機会や場に活用する。
・お寺でカフェサロンを開くと良いのではないか。

●参加の利点

企業と連携した参加ポイント制度をつくる

・IT 関連企業と連携して、参加したことがサービスポイント還元される仕組みになると良いのではないか。
・ポイント付与があるとメリットが市、地域、企業にも出る。
・参加し甲斐がある、参加すると楽しいメリットが必要。
・参加した結果、何か変わると良い。
・お金やお弁当などの報酬を付ける。

地域で資源を共有（シェア）する仕組みをつくる

・町内会で小さい除雪機を買って、地域でシェアする（非課税の補助があるといい）。
・不用品の情報を回覧板で共有している（道新がサービスの仲介をしている）。

第４章　参加者アンケート

１　アンケート実施概要

本アンケートは、参加者にワークショップについて率直な意見を伺い、次年度以降のワークショップの開催・運営等に活かすことを目的に実施した。

・調　査　対　象　　：「市民自治を考える市民ワークショップ」参加者
・配布・回収方法　　：ワークショップ当日（令和２年２月 22 日）に配布・回収
・回　　収　　数　　：26 名

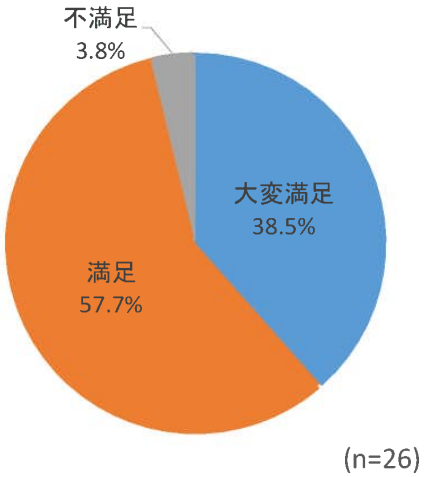
２　アンケートの質問項目と結果

【質問１】「市民自治を考える市民ワークショップ」に参加して

（1）参加した感想（ひとつに〇）

「大変満足」「満足」が回答の９割を超える結果となった。

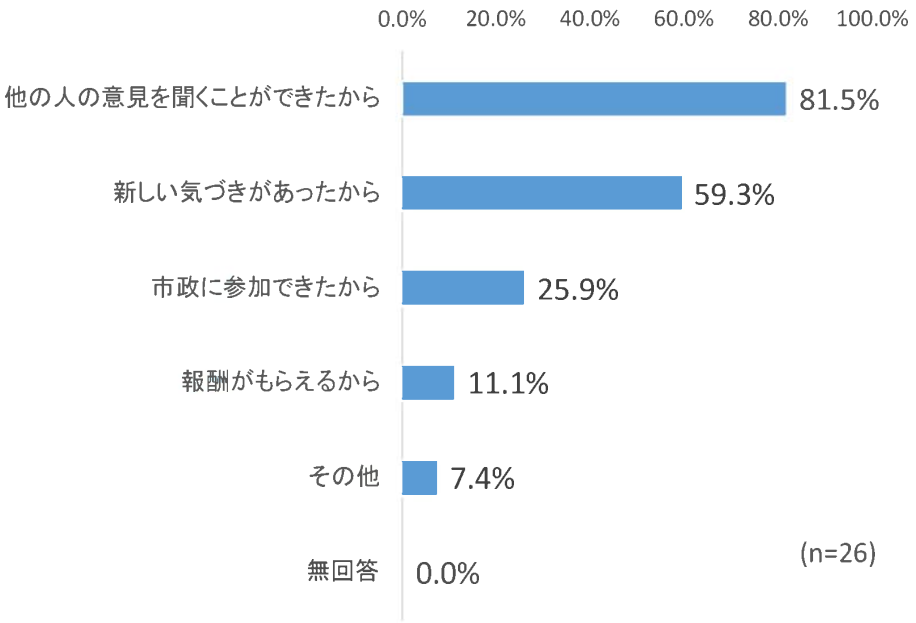
選択肢	回	割合
大変満足	10	38.5%
満足	15	57.7%
不満足	1	3.8%
大変不満足	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



（2）（1）で「①大変満足」「②満足」と回答した理由（複数回答）

「他の人の意見を聞くことができたから」との回答が 22 名と最も多かった。次いで「新しい気づきがあったから」との回答が 16 名であった。

選択肢	回答数	割合
他の人の意見を聞くことができたから	22	81.5%
新しい気づきがあったから	16	59.3%
市政に参加できたから	7	25.9%
報酬がもらえるから	3	11.1%
その他	2	7.4%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



※その他意見の内容

・何でも言いやすかった。うまくまとめてくれた。
・将来やりたいこと、興味あることとつなげることができたため。

（3）（1）で「③　不満足」「④　大変不満足」と回答した理由（複数回答）

「有意義な話し合いができなかったから」との回答が１名、「その他」との回答が１名であった。

選択肢	回答数	割合
思ったより大変だったから	0	0.0%
有意義な話し合いができなかったから	1	50.0%
市政について理解できなかったから	0	0.0%
その他	1	50.0%
無回答	0	0.0%
合計	2	100.0%

※その他意見の内容

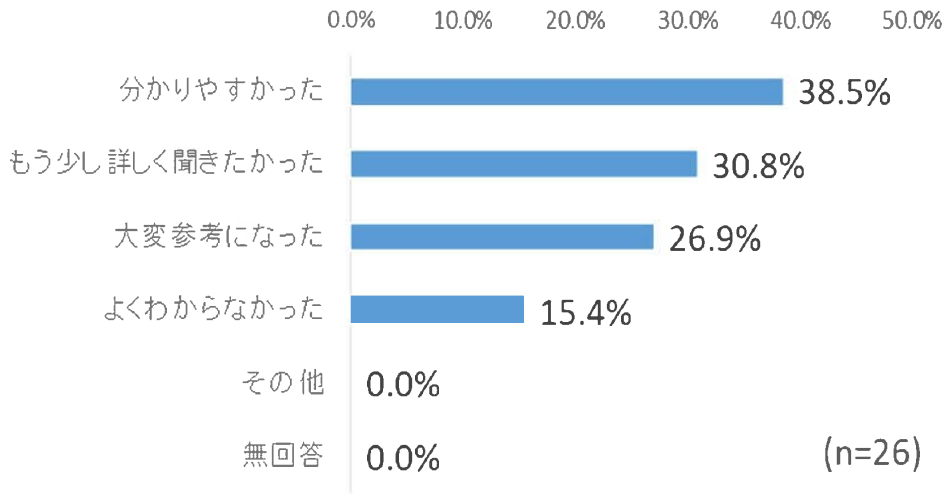
グループの意見が広がりすぎて集約に至らなかった。

【質問２】　情報提供について

（1）地域コミュニティに関する現状や取組事例、課題の情報提供について（複数回答）

「分かりやすかった」が最も多く 10 件であった。

選択肢	回答数	割合
分かりやすかった	10	38.5%
もう少し詳しく聞きたかった	8	30.8%
大変参考になった	7	26.9%
よくわからなかった	4	15.4%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



（2）（1）で「よくわからなかった」と回答した理由（自由回答）

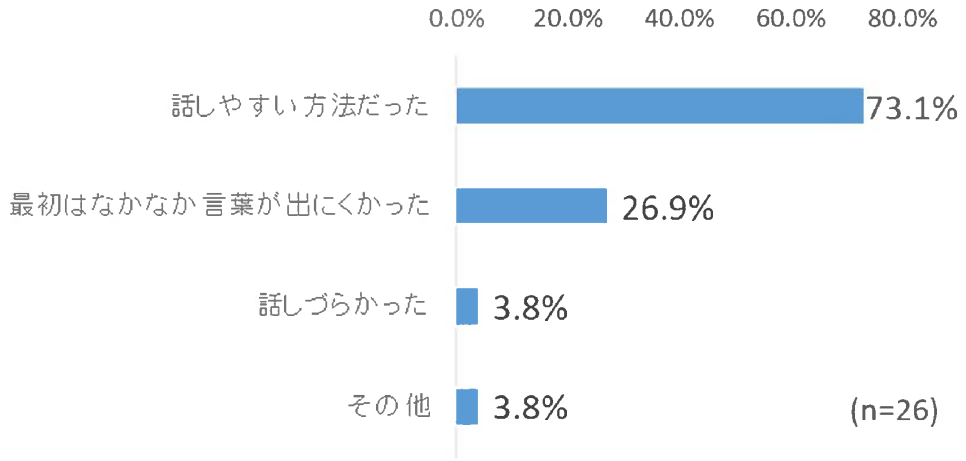
・抽象的な言葉が多かった。
・意図が良く分からなかった。
・そのような実感がない。

【質問３】話し合いについて

（１）話し合いの方法について（複数回答）

「話しやすい方法だった」と回答した人は７割以上であった。

選択肢	回答数	割合
話しやすい方法だった	19	73.1%
最初はなかなか言葉が出にくかった	7	26.9%
話しづらかった	1	3.8%
その他	1	3.8%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



（２）（１）で「話しづらかった」と回答した理由（自由回答）

・定められたテーマに従った会合では、定められたテーマ以外の問題についてしか話せない。他の問題について意見できない。

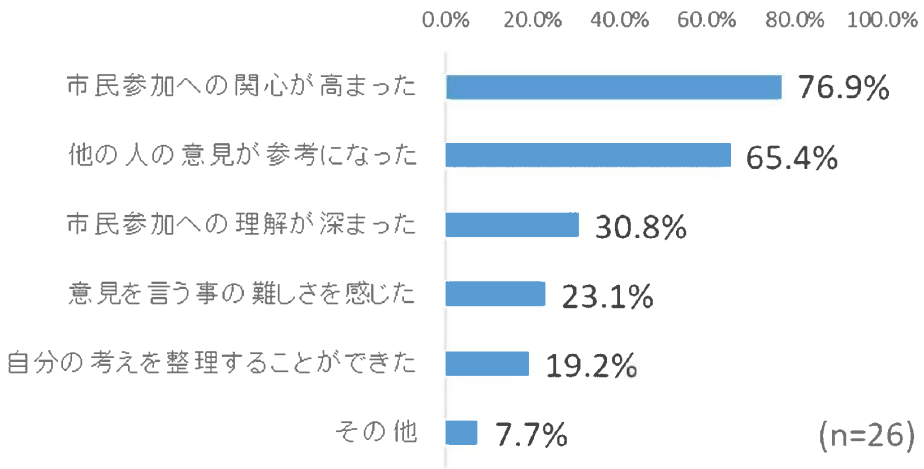
・自由な発言が多くなった場合はもう少し場をまとめた方が良い。

・意見が広範囲過ぎて主題がぼやけてしまった感がある。

【質問４】参加して得たものについて（複数回答）

「市民参加への関心が高まった」と回答した人は 20 名、「他の人の意見が参考になった」と回答した人は 17 名であった。

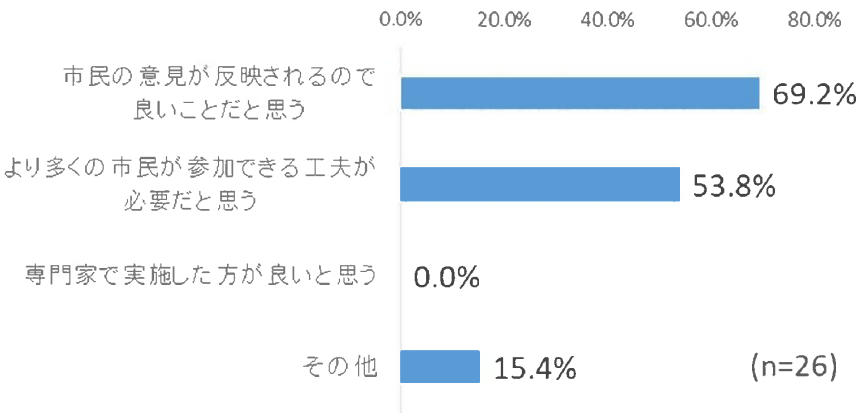
選択肢	回答数	割合
市民参加への関心が高まった	20	76.9%
他の人の意見が参考になった	17	65.4%
市民参加への理解が深まった	8	30.8%
意見を言う事の難しさを感じた	6	23.1%
自分の考えを整理することができた	5	19.2%
その他	0	7.7%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



【質問５】ワークショップの実施について（複数回答）

「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」が最も多く 18 件、次いで「より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う」が 14 件であった。

選択肢	回答数	割合
市民の意見が反映されるので良いことだと思う	18	69.2%
より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う	14	53.8%
専門家で実施した方が良いと思う	0	0.0%
その他	4	15.4%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



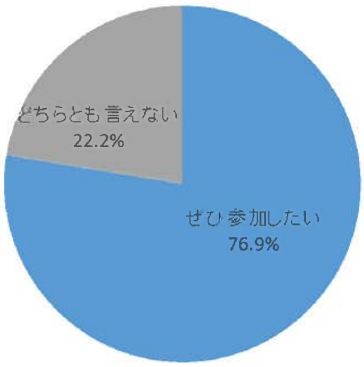
※その他意見の内容

- 実施することも大事であるけど、反映されていくのか今後に興味がある。
- 市職員の意見が重要。
- 市政に参加する当事者の参加が必要かもしれない。
- 市民の意見を理解した上で専門家の話し合いもする。

【質問６】今後このような取組の参加について（ひとつに○）

今後もこのような取組に「ぜひ参加したい」と約８割の参加者が回答した。

選択肢	回答数	割合
ぜひ参加したい	20	76.9%
どちらとも言えない	6	22.2%
参加したくない	0	0%
わからない	0	0%
その他	0	0%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



(n=26)

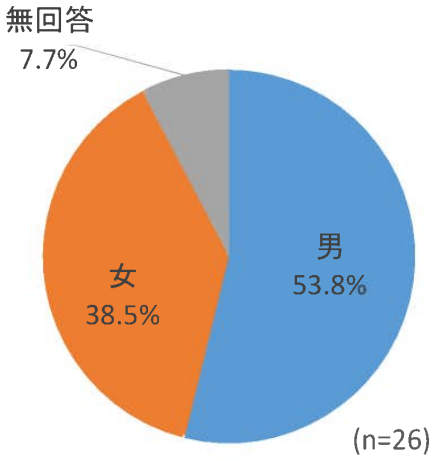
※回答理由

・多様な意見に触れることで、今後の判断材料にして活かしたいから。
・自分の意見やアイディアが反映される可能性があるため。
・自分の意見やアイディアが札幌市の方たちの耳に入っただけでうれしいです。
・いろんな方々との意見交換や話し合いの大切さを実感できた。
・他の人の意見を聞く事ができ、参考になった。自分の住んでいる地域や札幌市が住みやすいまちになるために考えていきたい。
・テーマによるため。また、参加して改めて意義について疑問を持ったため。
・興味のある内容であれば参加したい。
・自分の興味関心のあるテーマであれば参加したい。
・色々な人の考えを聞いてみたいと思いました。
・意見交換できるから。
・興味のあるテーマなら今後も参加したい。

【質問７】回答者さま自身について

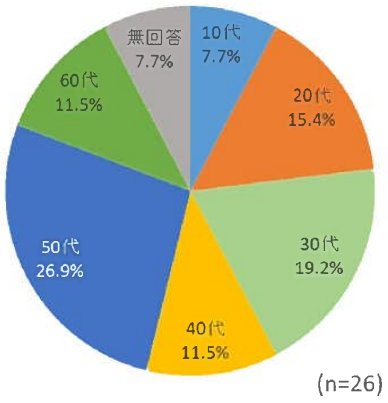
（１）性別

選択肢	回答数	割合
男	14	53.8%
女	10	38.5%
無回答	2	7.7%
合計	26	100.0%



（２）年代

選択肢	回答数	割合
10 代	2	7.7%
20 代	4	15.4%
30 代	6	19.2%
40 代	3	11.5%
50 代	7	26.9%
60 代	3	11.5%
70 代	0	0.0%
無回答	2	7.7%
合計	26	100.0%



【質問８】自由回答

26 名中 14 名から回答を得られた。内容は以下のとおりである。

・各グループの意見の集約、分析、公開を希望する。
・ワークショップの参加者の中から各グループで司会、書記、発表者を選出するのかと思ったが、取り仕切ってくださってスムーズな進行になり良かったです。取り仕切る方がグループに入ることを事前に教えて下されば尚良かったです。
・初めてなので、市民ワークショップとはこのような物かと思いました。
・様々な意見について、実現されなければ意味がない。
・いろんな人の意見が聞けて良かったし、自分では思わないことが年代や性別が違えば悩みになることがある。すべての人が満足する様な生き方や暮らし方は難しい。

・テーマを決めて、アイディアを出す場とした方が話しやすかったので、もう少し具体的な内容で市民参加としてはどうでしょうか。
・場を持つこと自体には意義があるとは思いますが、もう少し結果が見えると参加のしがいも感じられていいと思いました。
・個人的に少しだけ疑問が残るワークショップでした。なんとなくではあるが、全体的に「決まった答え」に誘導されているような感覚があった。
・必要性はあることは感じる限りですが、ワークショップとしての参加のあり方に更なる研究や理由付けが求められると思います。
・想像していたよりも、楽しく意見交換ができました。時間も3時間は長いと思っていましたが、ちょうどよかったです。
・是非、市長の参加を。
・ワークショップ全体の意見を集約、札幌市に提供した意見とその反応を後日報告してもらいたい。
・様々な世代、職種を交えてワークショップを行うと考え方が広がって良いと思いました。
・今日のように無作為で抽出して、参加希望者だけではなく幅広く集めた方が良いのでは？また、どのような意見が反映されたかという結果を教えてもらえると良いのではないか。

３　参加者アンケート結果のまとめ

（1）参加者について

今回の市民自治を考える市民ワークショップはテーマへの関心の有無に関係なく、幅広い世代の市民の意見を抽出するため、住民基本台帳から無作為で選ばれた方に参加案内を行い、参加申込をした方の中から抽選の上、参加者を選定するという手法（プランニングセル方式）で実施した。なお、無作為抽出にあたっては、あらかじめ、居住区や性別、年齢層ごとの構成比が札幌市の構成と同じようになるよう考慮して抽出した。

（2）参加者アンケート結果

1）ワークショップ全体について

ワークショップに参加した満足度については、「大変満足」と「満足」を合わせると 9 割以上と、満足度が高かった。その理由としては、「他の人の意見を聞く事ができたから」が 81.5%と多く、次いで「新しい気づきがあったから」が 59.3%であった。

また、話し合いの方法については「話しやすい方法だった」という回答が 73.1%、「最初はなかなか言葉が出にくかった」という回答が 26.9%と、多くの参加者にとって満足度が高かったものの、今回のようなワークショップ形式での議論に緊張感を感じた参加者もいたことが伺える。

2）情報提供について

情報提供について、「わかりやすかった」が 38.5%と最も多かったが、「もう少し詳しく聞きたかった」という意見も 30.8%あった。

3）ワークショップについて

ワークショップを実施することについて、「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」という回答が 69.2%と多く、今後の参加意向も 76.9%と非常に高かった。多くの参加者が、他の参加者の意見を聞けたことがよかったという感想を持っている。

また、参加して得たものについても、「市民参加への関心が高まった」が 76.9%と最も多かったため、このワークショップを通じて、地域コミュニティの活性化へのきっかけにつながったことが伺える。

また、「他の人の意見が参考になった」も 65.4%と高かったため、参加者同士の意見交換の時間をしっかりと確保し、参加者全員から均等に意見を引き出すことの必要性を再認識できる結果となった。

第５章　ワークショップの考察

今回の市民ワークショップでは、「なぜ、市民参加が必要なのか（市民参加の必要性）」を共有し「これからの市民参加を考える」をテーマとした議論を行った。
参加者から出された意見をもとに、将来の市民参加のあり方を整理する。

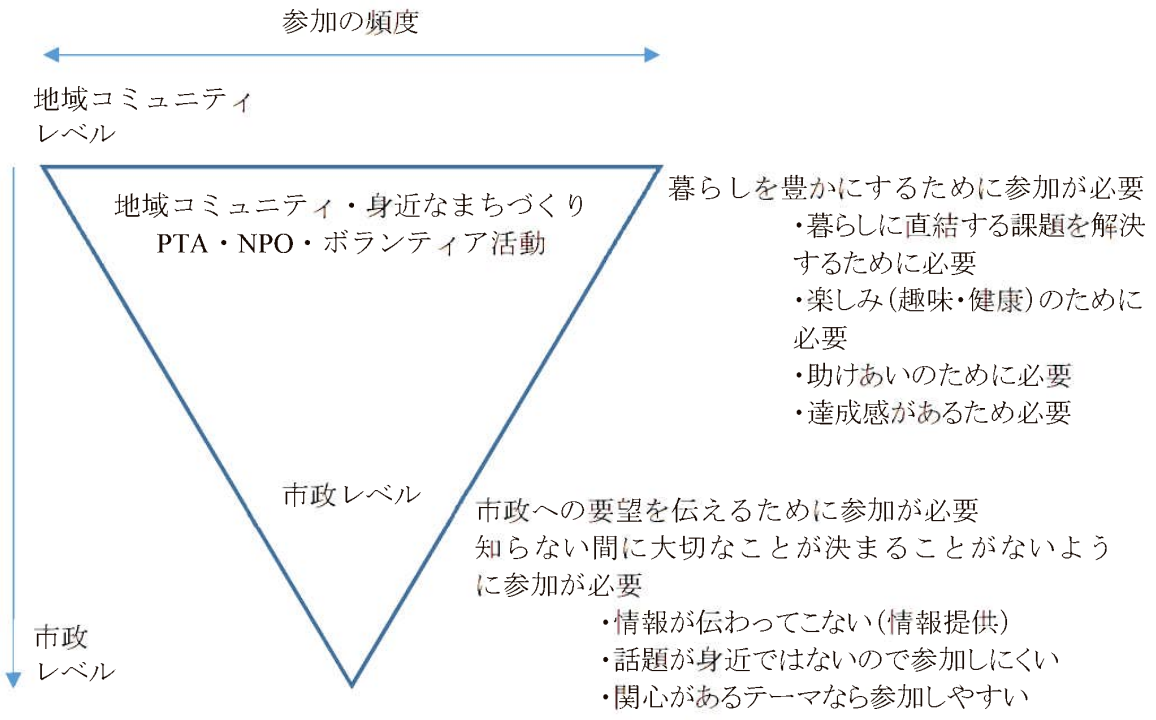
１　市民参加の必要性について

（１）市政レベルの市民参加の必要性

市政レベルの市民参加は、「多様化する市民の市政への要望を把握し、施策に市民の意見を反映させること」や「行政が行う施策を市民に理解してもらう」ために必要であることが共有された。
ただし、市民生活のなかで市政の情報が伝わりづらい、市の施策や計画検討等が身近ではないなどの課題が挙げられた。そのため、市政レベルの市民参加の必要性は共有されたものの、参加頻度は低い現状にあることが把握された。

（２）まちづくり・地域コミュニティでの市民参加の必要性

まちづくり・地域コミュニティでの市民参加は、「ごみや除排雪など、自分たちの暮らしを支えていくこと」や「災害時の助けあいなど、地域の課題は地域に住む住民たちで解決すること」が求められるため必要であると共有された。
ただし、地域コミュニティの中心を担っている町内会組織の高齢化や参加のメリットが感じにくいなどの課題が挙げられた。なお、市政レベルの市民参加よりは身近であるため、参加はしやすい状況であることが把握された。



２　将来の市民参加のあり方

（１）市政レベルの市民参加の方法や仕組み

ワークショップから出された意見から、市政レベルでの参加を高めていく方法や仕組みを整理する。将来の市民参加の方法や仕組みには、「情報発信」「参加する機会・仕組み・場」「参加の利点」の創出や工夫が必要だと考えられる。なお、この３点は、まちづくり・地域コミュニティレベルでも共通事項であると考えられる。

「情報発信」では、メディアの活用のほか、市民生活のなかで一般化しているスマートフォンを駆使したSNS（LINE）によって市政や身近なまちづくりの情報を発信し、共有していくことなどが求められている。

「参加する機会・仕組み・場」ではインターネットが普及したことを背景に、直接顔を合わせるコミュニケーションに加えて、インターネット通信を介したリモートワークショップなどの取組が求められる。また、市政のまちづくりを知る機会をツアーとして企画・運営することや、カフェなどの場でワークショップを実施して子どもや海外出身の方の参加を促進することも求められている。

「参加の利点」としては、報酬の仕組みの整備、身近なまちづくりもボランティア活動ではなくポイント制の仕組みを整備などのインセンティブを設けていくことが求められている。

今後は「情報発信」「参加する機会・仕組み・場」「参加の利点」の創出に向けた施策や取組を充実させていくことが考えられる。

■市政レベルにおける将来の市民参加の方法や仕組み

①情報発信

- マスメディアを活用する
- SNS（LINE）を活用する
- 興味を持てるようなテーマを設定する
- インターネットで発信する

②参加する機会・仕組み・場

- Webアンケートの充実
- 関心あるまちづくりのテーマに参加できるようにする
- テーマコミュニティとネットワーク、マッチング、市政ツアーをつくる
- テーマ・年代別のワークショップを開催する
- リモートワークショップによる市民参加の機会をつくる
- 気軽に参加できる機会・仕組みをつくる
- 子どもの市民参加を促す
- 夜・カフェで気軽に参加できるようにする
- 外国人にも参加してもらう

③参加の利点

- 報酬の仕組みを整備する

- ポイント制度・ボランティアポイントの仕組みを整備する

（2）まちづくり・地域コミュニティレベルの市民参加の方法や仕組み

ワークショップの意見から、まちづくり・地域コミュニティレベルでの参加を高めていく方法や仕組みを整理する。まちづくり・地域コミュニティレベルにおいては、身近な社会課題を解決する観点に立って、多様な主体が連携した「コミュニティマネジメント（エリアマネジメント）」を進めていくことが考えられる。

特に、ワークショップの意見のなかで、少子高齢化、人口減少に伴い、町内会などのある単独の主体だけで地域のまちづくりを進めていくことは難しい状況にあることが把握されている。このため、まちづくり・地域コミュニティレベルでは、「参加する機会・仕組み・場」に分類される「コミュニティマネジメント（エリアマネジメント）」が大切になると考えらえる。

■まちづくり・地域コミュニティレベルにおける将来の市民参加の方法や仕組み

①情報発信

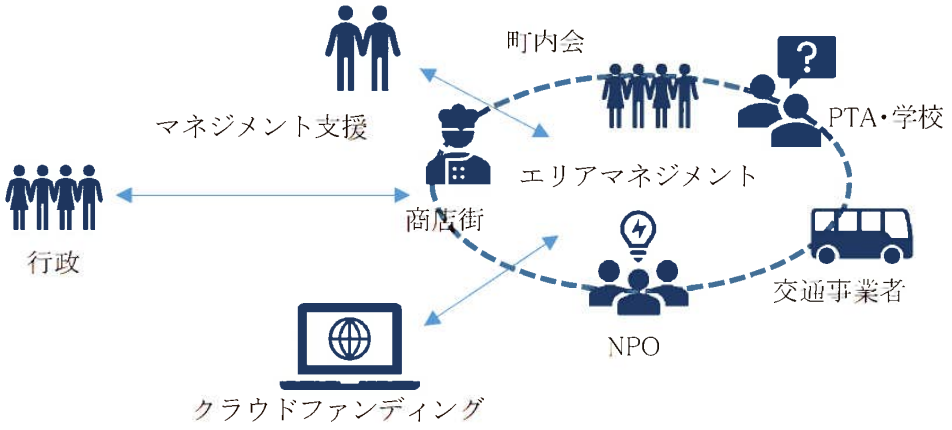
- 町内会に加入していない人にも情報を伝えるための回覧板も必要である

②参加する機会・仕組み・場

- 区レベルぐらいの方が身近に感じることができる
- 地域コミュニティは直接顔を合わせる（Face to Face）が基本である
- カフェなど気軽に立ち寄れるコミュニティのたまり場が必要である
- 地域コミュニティの課題を解決するために町内会を含めた多様な主体によるコミュニティマネジメント（エリアマネジメント）を行う

③参加の利点

- コミュニティ人材バンクなど登録制度を設ける
- 地域で資源を共有（シェア）する仕組みをつくる



6章　資料編

1　情報提供資料

市民自治を考える市民ワークショップ

～市民参加の将来像を考える～

日時：令和2年2月22日（土）13:00～16:00
場所：札幌市教育文化会館4階　研修室403
主催：札幌市 市民自治推進課

本日のプログラム

13:00 1. 開会、あいさつ
13:10 2. 情報提供①（20分）
13:25 3. ワークショップ①（40分）
なぜ、市民参加が必要なのか

14:10 休憩（10分）
14:20 4. 情報提供②（10分）
14:30 5. ワークショップ②（65分）
これからの市民参加を考える

15:35 6. 各グループから発表
15:50 7. まとめ
15:55 8. 閉会のあいさつ、アンケート記入

情報提供

令和元年度
市民自治を考える市民ワークショップ

～市民参加の将来像を考える～

札幌市市民文化局
市民自治推進室

市民参加？

市民参加を知るためのキーワード

その1 札幌市自治基本条例
&
その2 “まちづくり”

札幌市自治基本条例

2007年（平成19年）4月～

札幌市のまちづくりの基本原則

市民が主役のまちづくりを進める、基本ルール

？

市民参加！

“まちづくり”

“まちづくり”

道路、建物などの社会基盤の整備
都市計画、都市開発

ごみ拾い、花植えなど美化活動
まちの文化や歴史の継承
まちの魅力づくり
地域の人たちの交流促進
子どもや高齢者の見守り

どちらも
“まちづくり”

“まちづくり”

まちづくり ＝ 誰もが暮らしやすい
まちにするための活動全般

理想のまちにするためには…

まちづくり

安全に安心して暮らせるまちにしたい！

快適な生活環境をつくりたい！

子どももお年寄りも元気なまちにしたい！

理想のまちにするためには…

市民参加

まちづくりと市民参加のイメージ

まちづくり

市政		地域活動
ごみの有料化を計画する	×	ごみステーションの清掃をする
公園を造る		公園で夏祭りを開催する

この部分で札幌市に意見を伝えたり会議に参加する

この部分で清掃やお祭りなどの活動に参加する

「市政への参加」

「（身近な）まちづくり活動への参加」

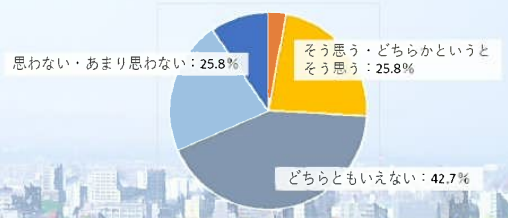
市民参加とは…

- 理想のまちにするために、まちづくり活動に参加してもらうこと
- 「市政への参加」と「（身近な）まちづくり活動への参加」の2つ

参考 市民参加の現状

※直近のインターネット市民アンケート調査

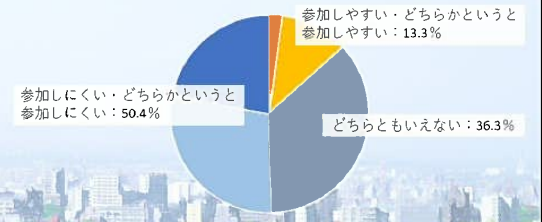
「市政への参加」の機会は十分だと思いますか？



参考 市民参加の現状

※直近のインターネット市民アンケート調査

「まちづくり活動」には参加しやすいですか？



1. 市政への参加

①アンケート
- 市政に関してアンケートに答えてもらいます。

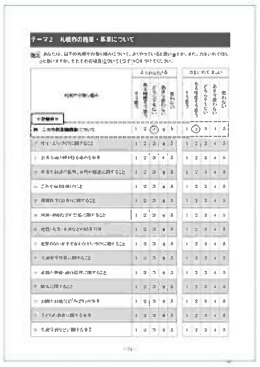
②パブリックコメント
- 計画や条例の最終案を作る前に、事前に公表し、市民の皆さんに意見を聴くことをいいます。

③全市的なテーマのワークショップ
- ワークショップで行政や施策などに理解を深めてもらいながら、意見などを出してもらいます。

④審議会・委員会への参加（公募委員）
- 審議会は、市からの意見を求められた事項を調査・審査し、それに対する意見を述べる機関です。

3

①アンケート調査



②パブリックコメント

計画等の案
↓
公表・意見募集
↓
計画等の案への意見の反映
↓
計画等の案の確定

5

③全市的テーマのワークショップ

市民対話事業　2030冬季オリンピック・パラリンピックの招致を考えるワークショップ

6

全市的テーマのワークショップ

札幌市　総合交通計画策定に向けた検討会

7

④審議会・委員会への参加

真駒内駅前地区まちづくり検討委員会

札幌市歴史文化基本構想　策定委員会

手話・障がい者コミュニケーション検討委員会

8

2. まちづくり活動（コミュニティ活動）への参加

①町内会活動
②身近なまちづくりへの参加
（地域レベルのワークショップ）
③NPO活動
④PTA活動
⑤ボランティア活動

9

①町内会活動への参加

ごみステーションの管理・清掃活動

10

町内会での除排雪

パートナーシップ排雪

11

災害時の助け合い

12

高齢者の見守り

13

②身近なまちづくりへの参加
（地域レベルのワークショップ）

町内会について考えるワークショップ

14

③NPOなどの活動

ゲストハウスにおける学童保育

札幌市清田区　北野の子ども食堂

富士見市の子育てサロン「ミッキークラブ」

15

④PTA活動

交通安全運動

読み聞かせ活動

PTAバザー

16

⑤ボランティア活動

清掃ボランティアgreenbird

森林ボランティア

観光ボランティアガイド

17

3. 新たな市民参加

- Facebookのグループ機能を使い、市政について自由に意見交換

大分市（SNSを活用した市民参加ミーティング）

- 議題と期間を設定
- SNSであげられた意見について大分市が考え方や今後の対応を検討

18

新たな市民参加

クラウドファンディング

- 渋谷に行ったときや仕事帰りに気軽に立ち寄れて、飲みに行ったついでに本が借りられる。
- 渋谷に深夜1時まで利用できる「夜の図書室」がある。
- 夜の図書館は、クラウドファンディングで1700人以上から9,400千円以上の資金を集めてつくられました。

19

クラウドファンディング

子育て中のママたちが
家庭から地域へ　地域から社会へ　ソフトランディングしていけるよう
子育て中のママたちがスタッフとなって
『地域社会と母親をつなぐ活動』をしています！

20

ワークショップ1

なぜ、市民参加が必要なのか

①市政レベルの市民参加の必要性

②まちづくり・地域コミュニティでの市民参加の必要性

21

情報提供２

これからの市民参加を考える

22

まち・地域コミュニティで起きていること

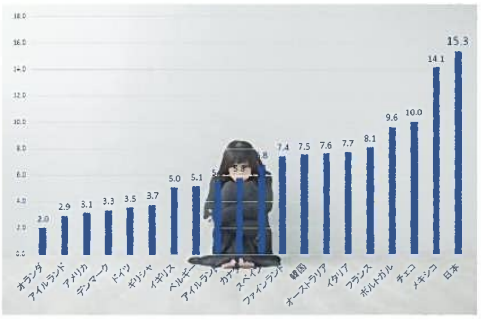
高齢化に伴う課題の顕在化

23

地域での子育て支援

24

孤独な日本（社会）～見えない社会課題



友人、職場の同僚、その他社会団体の人々との交流が「全くない」または「ほとんどない」と回答した合計

出典：OECD, Society at Glance:2005

25

空き家・空き施設の増加

26

環境への取り組み

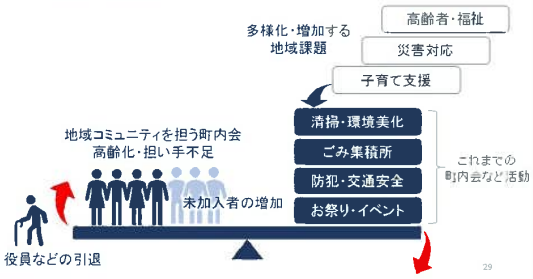
27

共生社会への取り組み

28

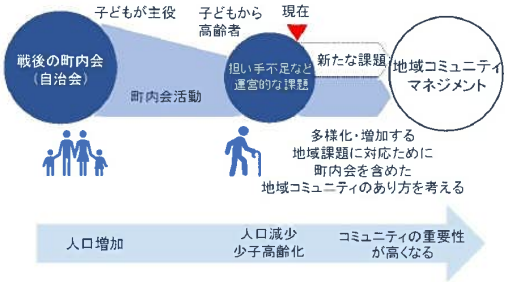
地域コミュニティで起きていること

- 人口減少、少子高齢化などに伴い全国各地、町内会・自治会を中心とした地域コミュニティの役割が重要になっています。
- 一方で地域コミュニティの運営主体の町内会などの組織は、高齢化や担い手不足、未加入者の増加などの課題を抱えています。



29

地域コミュニティマネジメント



30

NPO～NPO法人 ふらっとステーション・ドリーム 横浜市戸塚区 ドリームハイツ

空き家 空き店舗 × 子育て（1980年代後半） × 高齢者支援（1990年代～） × NPO

http://hanachari.jp/blog

31

NPO ～岩手県花巻市 コミュニティカフェ「こっぽら土澤」

空き家 空き店舗 × 高齢者支援 × 地域の女性グループ

32

札幌市　西区ふくい会館

空き家 空き店舗 × コミュニティの場 × 連合 町内会

- 2014年に閉鎖となった幼稚園の払い下げを受けて、会館をリノベーションした。
- 多様な活動の場として広く利用されており、収益を生んでいる。

35

コミュニティの場

- 若い世代も寄りたくなる交流スペースを設けて団地の再生をスタート

埼玉県三郷市　みさと団地　多世代コミュニティ拠点"みさとのおみせ misatoinaiみあきない"

34

空き家活用

- ゲストハウスで学童保育
- 町内会と連携してまち歩きツアーなどを検討中

36

空き家活用

- 空き家を資源として活用するため、5年間の期限付きで、空き家所有者に物件を提供してもらい、利用者を募集してストック循環。

ハウスハルテン(ドイツ ライプツィヒ)

38

空き地活用

- 誰でも自由に参加できる新しいコミュニティの場を創出。
- 空き地を市民で共有し、庭としての機能だけでなく、教育や研究のための重要なネットワークにもなっている

アーバンガーデン(ドイツ ベルリン)

37

にぎわい

38

シェア

39

ワークショップ2

① これからどのような市民参加が考えられるか
これからの社会課題などを参考に考えてみてください

② これからの市民参加のアイディア
情報提供のあり方や市民参加のアイディアを考えてみてください

40

2　アンケート票

「市民自治を考える市民ワークショップ」　アンケート

今後の参考にさせていただきますので、以下のアンケートにご協力下さい。

質問１　市民自治を考える市民ワークショップ」に参加して

（１）参加された感想をお聞かせ下さい。最もあてはまるもの１つに「○」をつけてください。

（　　）①　大変満足　　（　　）②　満足　　（　　）③　不満足
（　　）④　大変不満足　　（　　）⑤　その他【　　】

（２）（１）で「①大変満足」「②満足」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

（　　）①　市政に参加できたから　　（　　）②　他の人の意見を聞くことができたから
（　　）③　報酬がもらえるから　　（　　）④　新しい気づきや発見があったから
（　　）⑤　その他【　　】

（３）（１）で「③不満足」「④大変不満足」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

（　　）①　有意義な話し合いができなかったから（　　）②　市政について理解できなかったから
（　　）③　思ったより大変だったから
（　　）④　その他【　　】

質問２　情報提供について

（１）市民参加の現状、新たな市民参加、これからの市民参加などの情報提供について、あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

（　　）①　分かりやすかった　　（　　）②　大変参考になった
（　　）③　もう少し詳しく聞きたかった　　（　　）④　よくわからなかった
（　　）⑤　その他【　　】

（２）（１）で「④よくわからなかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

（　　）①　内容が難しい　　（　　）②　説明が不十分
（　　）③　用語が難しい　　（　　）④　話が聞き取りにくい
（　　）⑤　説明の時間が短い　　（　　）⑥　その他【　　】

質問３　話し合いについて

（１）話し合いの方法について、あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

（　　）①　話しやすい方法だった　　（　　）②　最初はなかなか言葉が出にくかった
（　　）③　話しづらかった　　（　　）④　その他（　　）

（２）（１）で「③話しづらかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。（自由回答）

質問４　参加して得たものは何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

（　　）①　市民参加への理解が深まった
（　　）②　市民参加への関心が高まった
（　　）③　自分の考えを整理することができた　　（　　）④　他の人の意見が参考になった
（　　）⑤　意見を言うことの難しさを感じた　　（　　）⑥　特に何もなかった
（　　）⑦　その他【　　】

裏面に続きます

質問５　市民が市政への参加やまちづくり活動について考え、意見を出すワークショップを実施することについて、どのように思いますか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

（　　）①　市民の意見が反映されるので良いことだと思う
（　　）②　専門家で実施した方が良いと思う
（　　）③　より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う
（　　）④　その他【　　】

質問６　今後もこのような取組に参加したいですか。最もあてはまるもの１つに「○」をつけてください。その理由は何ですか。（自由回答）

（　　）①　ぜひ参加したい　　（　　）②　参加したくない
（　　）③　どちらとも言えない　（　　）④　その他

理由

質問７　回答者さま自身について

（１）あなたの性別を教えて下さい。あてはまるもの１つに「○」をつけてください。
（　　）①男　　（　　）②女

（２）あなたの年代を教えて下さい。あてはまるもの１つに「○」をつけてください。
（　　）①20 代　　（　　）②30 代　　（　　）③40 代
（　　）④50 代　　（　　）⑤60 代　　（　　）⑥70 歳以上

質問８　その他、ご意見・ご感想、ワークショップのあり方などについてご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

３　グループごとの意見

（1）テーマ１『なぜ、市民参加が必要なのか』における各グループの意見

1）Ａグループ

〇参加の経験

■身近なまちづくり

・地域の見守りや活動をイメージする。

・町内会の活動のイメージ。班長の経験がある。

・夏祭りのイメージを持っている。

・PTA の活動がある。そのイメージを持っている。

■市政

・市長とのタウンミーティングの経験がある。

〇参加の必要性

■暮らしを支える役割

・暮らしを支えることに必要だと思う（ごみの管理、除雪、排雪）。

・まちづくりや暮らしを良くするために改善していくとその意見を言う機会が必要だと思う。

■情報共有、提供

・まちづくりの方針などを直接聞くことができる。

・直接的にいろいろと話ができると満足度がある。

・透明性を高めるために必要だと思う（目的、経過、事業者はだれか）。

■社会情勢の変化

・町内会の組織が以前はしっかりしていたが、意見の吸い上げが難しくなっていると感じる。

・直接的に意見交換できる場がもっと必要と思う（テレビなど）。

■必要ではあるが、反映されたのかわからない

・市政には意見を言ってもなかなか反映されていないような気がする。

・必要性は感じるが、反映されるのか分からない。情報が滞るイメージがある。

2）Ｂグループ

〇参加の経験

■市政、選挙

・選挙は義務のため、行く機会があれば行くようにしている。

・市民に関心や興味を持つ。

・市民としてのメリット、特典が得られるかもしれない。

・自分たちが安心して暮らすために行う。

・何かあった時に助けがある。

・安心感のあるまちになる。

〇参加の必要性

■自分が地域にいることの義務

・暮らしているのならば、地域のことを考えるべきである。

・自分たちの地域のことは自分たちでやるべきである。

・地域に住んでいることの自分自身への認知のためだ。

・参加せずに決まってしまうのが嫌だ。

・参加しないと文句も言えないからだ。

・未来への投資や貢献として参加する。

・高齢者も頭、体をつかうため、よい。

・子どもたちの遊び場である。

・地域は多世代の交流の場だ。

・健康に関わってくる。

・若い人にも参加していただく。

■市民参加、しづらい理由・課題

・市政が身近ではないため。

・忙しい人は関心すらない。

・市民参加をするためのきっかけづくりが必要と感じる。

・手を貸してほしい人と協力したい人がマッチングしていない。

・そもそも活動を知らない。参加したいと思っていても知らないため、繋がらない。

・情報発信ツール、広報もネットもわざわざ見ていない。

3）Ｃグループ

○参加の経験

■身近なまちづくり

・みんなの不満は何か。

・考え方が世代で分かれている。

■ボランティア活動

・草むしり（退職した後）をしたい。

・病院へのイベント企画をやりたい。

・入院者への本の貸出をしたい。

・子どものボランティアをやりたい。

・自転車レース（3-5 歳）したい。

・興味がある。

・参加したくなる。

・楽しさがある。

■地域の活動

・報酬がある。

・児童会館（餅つき大会・木育）に行くため。

・豚汁づくりをするため。

・PTA 活動を行っているため。

・若い人のイベントが多いから。

・老人クラブの方の活動があるため。

○参加の必要性

■市政レベル

・情報が伝わっていない。

・みんなでサポートできる体制づくり必要だ。

・子育て支援（体制を整える・困っている所に支援）をどうしたらいいのか。

・課題：雪・子どもの放課後・高齢者・教育（まちづくりや福祉・環境）がある。

・写真で情報発信（丘珠空港）してほしい。

・札幌の市営交通を考えるなど、全市に関わる取組を進めるために必要ではないか。

4）Dグループ

○市民参加の経験

■以前の市民参加（身近なまちづくり）

・住民同士の結束が強かった気がする（団地）。

・色んな世代が集まって話し合うのが楽しかった。

・年に2、3回集まって地区ごとに話し合っていた。

■現在の市民参加のイメージ（身近なまちづくり）

・多様性が認められていない世の中になっている。

・声が大きい人が目立つ、意見が通ってしまう。

・共感の言葉がある。

・言いっぱなしになっていることもあると感じる。

・意見が反映されるのか、分からない。

○市民参加の必要性

・快適な生活をしていく為に必要と感じる。

・除雪の順番が回ってきていた、生活面で大事だと感じる。

・地域に住んでいるからわかることがたくさんあると思う。

■市民参加のイメージ

・町内会活動

・参加していたら町の流れが見える。

・町内会は年配の人がいるイメージがある。

・家庭を持つと町内会へのイメージ変わる。

・消防訓練に出たことがある。

・ボランティア活動だと感じる。

・子ども会など、子どものつながりを通じて地域でのつながりができる。

・PTA活動は「なるほど。」と思った。

・都会に引越してきたばかりだと、だれが地元の人かわからない。

・「よし、市民活動をやろう。」となると敷居が高い。身近なところから行動するのが良いと思う。

・周りの人で厚真に行った時の写真をSNSにアップするなどしていた。

■町内会以外から自然と・・・

・町内会よりもやる人が中心にいる。

・地方に行くと町内会という意識があまりなく、自然とできているのかもしれない。

・知らず知らずのうちにやっている活動ありそうだ。

・輪番制のような強制力も時には必要なのかもしれないと思う。

■あったらいいこと、やっていきたいこと

・自分から少しでも進んで集まりに参加することも大事だ。

・みんなで集まれる場所が欲しい。多様な考えが共有できるといいと思う。

5）Ｅグループ

○市民参加の経験

■市政への参加のイメージ

・固いイメージ、参加のきっかけや情報がない。

・今日のワークショップが初の市政参加である。

・行政というと固いイメージがある。

○市民参加の必要性

■市民の意見を反映させるために、参加は必要である。

・市政への参加のきっかけがない。

・知る機会がない。テレビのCMなどあると良いのだろうか。

・マスコミの報道がないと情報が入ってこない。

・市全体で考えている市民は少ない単位での情報発信や参加のきっかけがあると良い。

（2）テーマ2『これからの市民参加を考える』における各グループの意見

1）Aグループ

○これからの市政参加

■情報（気軽に受け取れる）

・テレビで市政の情報を受け取るようにしている。

・コミュニティレベルにおちる、J-COMなど有線の番組でも良いと思う。

・インターネットが普及しているので、それを利用している。

・ママ友はLINEで情報交換している。

・スマホで情報を受け取っているので、LINEが良い。

・市政の情報はLINEを使って出してもらいたい⇒国からでもいいのではないかと思う。

・SNSで情報提供があると良い。登録するとインセンティブがあると良い。

・楽天などのサービスポイントと連携して使えると良いのではないかと思う。

・気軽に意見を言えるツールを駆使する。

■直接的なコミュニケーション（Face to Face）

・直接会話や意見を言える機会は必要と感じる。

・地域レベルの意見交換の場をもっとたくさんつくっていく事が大事だと感じる。

・いろいろな主体の人が集まる機会をつくりたい。

・福祉、交通情報や町内会以外の人も参加することが良いと思う。

・なかなかボランティアとして活動に参加するのは難しい。

○参加の仕組み

■地域レベルの参加の機会

■町内会だけでなく、地域レベルで意見を吸い上げる機会をつくる

・暮らしに役立つ重要な情報は町内会が持っている。

・企業など、エリアを取りまとめる役割を担うと良い。

・ポイント付与があるとメリットが志、地域、企業にも出ると思う。

2）Ｂグループ

これからの市民参加を促すためのアイディア

〇情報発信・共有

・自分の周り（生活圏）に情報がない。
・活動を知らない。
・マッチングしていないと感じる。
・関心がない。
・身近ではない。
・自分に当てはまらない。

〇市政への参加

・海外の取組などについて、視察を議員さんではなく一般市民から募集したい。
・海外の事例を調べて取り入れたい。
・市外の人を集めて、意見を聞きたい。
・企業に協力してもらいたい（チラシ置く、協賛）。
・このアイディア自体について、企業のノウハウを教えてもらいたい。
・生活サイクルの中に情報があると良いと感じる。
・人がいるところに情報を集めたい！（スーパー、地下鉄）
・まちセンで情報を発信するなら 24 時間対応を検討してもらいたい。
・医療機関同士では情報を共有している。
・ダイレクトメールで発信元が怪しくないものが良い。
・メールでの WEB アンケートでも良いと思う。
・口コミは信頼できる。
・市役所に来た人に誘ってみる。

〇身近なまちづくりへの参加

・イベントに参加、協賛する。
・広告のスペース（場所を貸す）を設ける。
・講演を実施する。
・夜カフェ（若い方、働いている人）を開く。
・時間帯を変える。
・土日に地域の活動が実施されると、子ども達は普段地域活動に実施しない父親や親子で参加することができる。
・子ども・お父さんの関心を引くターゲット別のイベントがあると良い（アイドル・カードゲーム・劇・景品など）。
・学生にボランティア参加してもらう（学習・除雪）など、子どものころから市政に参加してもらう習慣を作る。
・外国の方にもどんどん活躍してもらう。

・ボランティア活動の様子を市民が観て、さらに地域活動に参加してもらいたい。
・地域にどんな方が住んでいるかわかると、参加しやすいと思う。参加も声かけやすい。
・主催は気軽にできたほうが良いと感じる。

3）Ｃグループ

〇これからの市民参加

・市の考え方が伝わっていない。

・参加しやすくなる情報の提供が必要ではないか。

■既存の場を利活用

・掲示板活用（スーパー・地下鉄・学校・お店・スタバ）をする。

・飲食店のトイレ・地下鉄の広告・バス・図書館・コンビニなどが良い。

・市民参加について SNS、人から（いろいろな職・立場）の口コミを活用するのはどうか。

・達成感があるものが良い。

・地域に貢献したいというメリット（ポイント制）があればどうか。

・経験がメリットに（看護など）なる。

・PTA 活動（こどもにメリットがある）を活用する。

・個人の意見がどのように反映されるのだろうか？よく分からない。

・外国の方との触れ合いなどの活動が必要である。

・市が運営する無料保育園での親子のケアがあったらよい。

・子育て支援があればよい？

・民間、食品の余ったものを母子家庭などに届ける支援はどうだろうか？

・カフェを地域のいろいろな人が朝から利用でき、さらにリーズナブルだとよい。高齢者だけ利用するわけではない。

・地域であると良いなというものは、子ども食堂、認知症の方が働いている場所などがあると良い。

4）Dグループ

○市民活動していく為に必要なこと

・副業まではいかなくても、市民活動に参加できる機会をつくりたい。
・楽しいのが一番よい！
・一人で行きやすい居酒屋のように、自分の居場所があると良い。
・活動の拠点がもっとあると良いと感じる。
・市からの情報ってやさしいのかもしれないが、敷居が高く感じる（言葉として）。
・手を上げやすい環境づくりが大事である。
・ボランティアだけでなく、報酬をもらえると参加しやすいのかもしれない。
・交通費や他の報酬等があればよい。

■フリースペースがあると良い

・創生スクエアにフリースペースがあり、とても良い！
・若者、社会人も気軽に使用できるものがあると良い。
・各区に図書館があったら良い。
・図書館では絵本の読み聞かせを行ったり、小さい子から高齢者までが利用している。
・やってみることで楽しさを知って次につながっていくと思う。

■ネットワークづくり

・周りとネットワークをつくる（おさそい）。
・好きなこと、関心あることから市民参加につながっていくと良い。
・自然にできるといい！
・年代別・ジャンル（所属別）のWSを開催する等はどうだろうか。
・子どもが大きくなると、一時期地域から離れる気がする。
・ガーデニング好き、興味のあるものでつながっていくことはできないだろうか？
・きっかけの為の登録制のネットワークづくりをしてみる。
・子どものつながりで親同士のネットワークをしてみる。
・SNSで日頃からボランティアなどのネットワークを作っておく。

■子ども食堂

・原点は共働き家庭が増えてきたことだが、偏見の目が最近は増えている。
・子ども食堂に行っているから貧困の目で見られる例もある。
・自分の職業（レストラン）からフードロスのことを考えたことがある。
・児童会館や町内会館のような（かつ今風な）施設があるとよい。
・こども食堂の原点となるものがあると良い。
・関わる層を広げることで偏見の目がなくなるのではないだろうか？

■ご近所人材バンク

・近所人材バンクを行ってはどうか。
・人出が少ないので、技術ごとに自分の得意を活かせる機会があればよい。
・シルバー人材等に限定をせずにつくってみる。
・色んな世代に参加してもらう。

○参加のきっかけ

・行政の人だからと線引きするのはどうだろうか？そういう機会があってもいいと思う。

・無作為の効果で強制力があり、参加のきっかけになって新しい意見も出てくると感じる。

○最近感じていること

・役所の人はなぜ自分の生活があるのに、市民参加を忘れているように感じる。

・どういう分野の活動が足りていないかわからない。

・情報がありすぎるのではないか？

・施設を造るなどの際に上の人の意見だけだとあまり良くない。

・現場の声を聞くことが大切だと思う（市民参加大切）。

・想像力が弱くなってきていると感じる。

・選挙の重要性、若い人たちへ伝えたらよいのではないか？

5）Ｅグループ

〇地域

・町内会役員や、当番をやっている。

・町内会活動に参加している（会議、ごみ、清掃）。

・町内会は地域が暮らしやすいように、地域の為に活動している。そこに行政からのお願いが来ている。

・今町内会でやっていることは、本来行政がやることではないか？それを市民にお願いしていると思う。

・地域がそれぞれ良いと、札幌市が良くなると思う。

・町内会同士の横のつながりや情報交換があると良い。

・PTA 活動に参加している。

・ボランティアなどやっている。

・お寺でカフェサロンをできると良い。

・単身高齢者の集まりに参加しているが、徐々に運営側への参加者も増やしていけると良い。

〇市民参加により地域のニーズを把握

・地域の課題を解決して、住みたいまちにするために市民参加が必要と感じる。

・災害時のことも考えると、地域コミュニティがしっかりしていると良いと感じる。

・避難所の運営方法などの、対応の仕方について行政から情報がない。

・地域の課題等の、テーマを決めて市民参加型の意見交換会が必要である。

・地域単位で市民レベルのニーズや意見を見える化することが必要と感じる。

・ここに住みたいというまちにしていく為の住民の意見を聞けると良い。

〇情報発信

・マスコミを活用する（お金はかかるけど）。

・スマホで WEB 広告を出す。

・参加したくなるような情報の出し方をするのはどうか？

・何に困っていて、市民の参加が必要なのか伝える。

・SNS を活用する。

〇リモートでの参加

・リモート等の技術を使って、WS もみんなで集まらなくてもできるようにするのがよい。

・リモートで市長とのコミュニケーションの場を作れると良い（決められた時間に）。

・ご高齢の方もデジタルツールが簡単に活用できるようにする仕組みをつくる。

〇参加して何か変わると良い！フィードバック

・参加し甲斐がありますし、参加すると楽しい。

・参加した結果何か変わると良い。

・今日のような会に参加することで参加者からそのまわりの人たちへ波及していく。

・報酬をつける（お金やお弁当など）。

・いっても何も変わらないと思っても、言わなきゃ、やらなきゃ何も変わらないと思う。

・若い人はネット中心、孤独を感じている人の方が多い。

・電話やメールの方がコミュニケーション取りやすい。
・ワークショップでの意見がどう扱われるか、結果や過程が見えると良い。
・意見が通るような体質づくりをしてくれると良い。

○助け合いの仕組み

・困りごとを自分で解決できない人がいる。
・助けてあげたい人とのマッチングの仕組みがあると良い。
・ボランティア貯金の仕組みがあると良い。
・ネットワークづくりが大切。できることやスキルを活かしたいけどどうすればよいか？
・助けた時にポイントがもらえて、困った時にそのポイントを使える仕組みを地域で作れると良い。
・町内会やNPOなどとマッチングする仲介役が必要だ。個人同士だと不安がある。
・回覧板で困りごとを書いて拾い上げると良いのではないか？会館など、場の活用ができると良い。

○地域でシェア

・町内会で小さい除雪機買って、地域でシェアする（非課税の補助を！）。
・不用品の情報を回覧板で共有している（道新がサービスの仲介している）。

○参加のきっかけ

・回覧板は良い仕組みである。
・町内か加入者にしか情報が行き届かない。
・未加入者や日頃参加しない人にも知ってもらえればいいと思う（最初の1回）。
・地域のことを良く知っているのは女性の方が多い。
・子どもが小さいとママ友などが地域に多いと感じる。
→子どもが大きくなると関わりが減っていくとも感じている。
・知っている人がいないと参加しづらい、楽しそうなら参加するのではないか？
・ターゲットに合わせて魅力ある取り組みも行っていく必要があると思う。

○区単位での取り組み

・区ごとの力を入れていきたい方針や取り組みを示し、区民の声を集められるようにする。
・区のキャラクターに発信してもらう。

○子どもの教育

・学校単位でボランティアなどに参加してもらう。
・小中高で職業体験やっている。
・子どもたちへの教育が大切だ。
・市民参加を大人がしていないからピンとこないのかもしれない。
・子どもがまちづくりのゲームをやっているため、授業などで取り上げても良いと思う。
・ゲーム会社と組んで何か開発したりPRできると良い。
・きっかけはゲームで学ぶ。